

葉たばこの防霜対策について

福島県たばこ耕作組合

1. 降霜予察

凍霜害は次のような気象の時に発生しやすい。

- ① アジア大陸の高気圧におおわれ、気温が下がり、快晴で無風の時。
- ② 日中は快晴で暖かく、夕方から冷えて、空気が乾燥しているとき。
- ③ 夜間は雲がなく、空は濃紺色で風がほとんどなく、月や星が見えるとき。
- ④ 翌朝の最低気温が4℃以下になると予想される時。

2. 事前対策

- ・ 苗の対策
 - ①灌水制限による馴化処理を行い健苗を育成する。
 - ②凍霜害を受けやすい地域は、予備苗を確保する。(2割程度)
 - ③移植後の残苗は、3週間程度確保する。
- ・ 畑での対策
 - ①被覆法・・・稲わら、籾殻等を葉たばこの上にのせる。
(産地事例－古新聞等を利用して効果あり)
 - ②高畦・・・畦をできるだけ高くする。
(産地事例－畦の高さを25cm以上にして被害が最小減に)
 - ③その他・・・保温性の高いシルバーマルチを使用する。

3. 被害後の対策

- ①被害後あわてて抜き取らず、生育の回復を待つ。
- ②根の活力を促すため、マルチポリの撤去は、一時見合わせる。(大土寄体系の場合のみ)
- ③被害程度による措置
 - ・ 数日後の状況を見て。
 - ・ 根元まで枯死した苗は植え替える。
 - ・ 心葉に異常のないものは、そのまま育成する。
 - ・ 心葉が枯死しても、わき芽の見えるものは本木延長を行う。
- ④本木延長
 - ・ 被害後の回復状況を見て行う。
 - ・ わき芽は地際部に近く生育の旺盛なものを選定し一本立ちさせる。
 - ・ 一本立ちさせる時期はわき芽が10cm程度生育したときに行う。
 - ・ 一本立ち直後にヒトマイシンS液剤500倍液を散布し、病害発生予防に努める。
 - ・ 被害激甚畑は、少々の被害軽微株があっても、全面的に本木延長を行い、作柄の斉一化をはかる。
- ⑤病害予防
 - ・ 大土寄せを行う場合は、基本根を傷めないように注意する。
 - ・ 大土寄せは被害後の回復状況を見て行う。